

住 居 家 具 試 作 報 告

池 辺 陽 ・ 白 石 浩 二

住居の椅子化の問題はすでにその可否の段階を過ぎ、時の問題になつてゐる。しかしどんな椅子が今後の生活に適合しており、標準的な住居家具として取り上げられるかという問題についてはその材料、価格等のことを含めてまだ未解決の部分が多い。市場品の大部分はまだ応接室の装飾品の色彩が強く、外面的で耐久力なく高価である。筆者は住居研究の一部として住居家具の問題を取り上げてみた。ここに紹介するのは最近のものの一部でまだ研究途上の試作的なものである。台所、収納棚等についてはいずれ稿を改めることとしたい。

1. 小 椅 子

小椅子は食事、家事、書斎等に使用される最も普通的なものである。小椅子の良否は椅子生活に非常に大きな影響があり、よく丸い背のないもので間に合せているのを見るが一時に揃えられないにせよこのままでは椅子生活の疲労は非常に大きい。市販のこの型式のものには構造的にも非常に弱いものが多い。第1図第2図第3図は皆最近の試作であるが特に耐久力に重点がおかれている。

第1図は骨組は全部木製であるが背と座は一体構造にし、脚部の接合は金属のスクリュエダボ(エムプレス社)を使用した。座は11番5巻スプリング5箇所使用、背はフォームラバーである。特別新しい形でもないが使い

易さと快適性に重点をおいた。上張りは綿モケット金茶(製作エムプレスベッド株式会社)第2図は骨組を全金属製(2mmT19mm鋼パイプ、背受は13mm鉄筋)で接合はすべて電気溶接、スプリングは月島振条のジグザグスプリングを使用、上張りはビニールレザー(黒及びカドミウムイエロー)である。(製作東京建材)第3図は座部骨組は木枠に肘板の脚を使用、背受けだけを13mm鉄筋を使用したもの(張りはヘヤーロック入り薄張布目ビニールレザー(ダークブルー))(製作エムプレスベッド株式会社)

2図3図とも、背の鉄筋は上部で背と離されて曲げてあるがこれは動かす際に背張りを保持せずにすむので汚れ、耐久力の点で相当有効のようである。2図3図はほとんど同形式のものであるが丈夫さで2図がすぐれ、経済的な点、軽さで3図がすぐれている。現在一般住宅用としては3図型式のものとこの座背が板、合板のものを使っているが、この型式で背受けを鉄筋にしたのは木製家具の缺陷のもつとも弱い点でこれによって大きく救われるからである。この他全合板のものも考えられるが現在の日本の段階ではまだ缺陷が大きく、コストも安くない。

2. 居間用イス(アグライス)

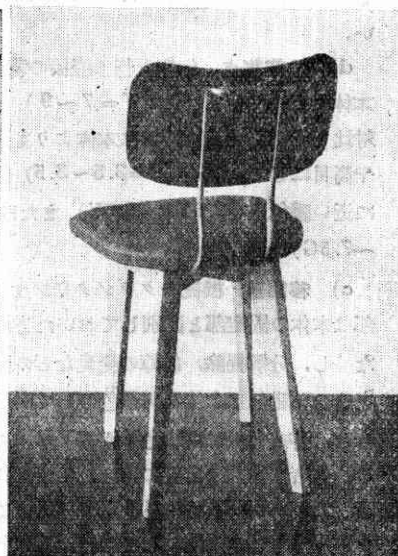
居間のイスはなかなか費用が高く、重量も重くなりや



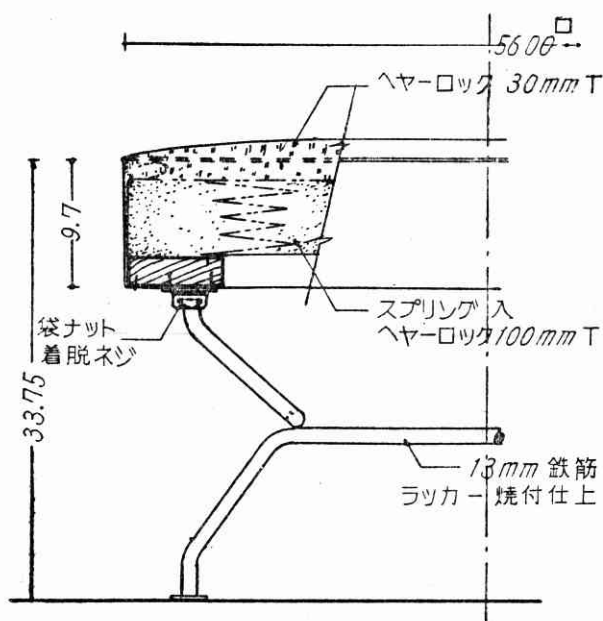
第 1 図



第 2 図



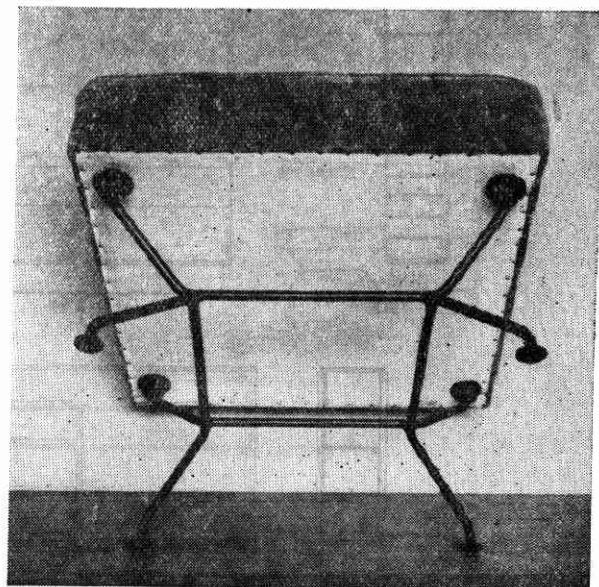
第 3 図



第 4 図

すい。ここに考えてみたのが背のない型式のイスで、これは決して新しいものではなく、従来も補助として多く使われていたが、これを多面的に活用しようという狙いである。一つのイスを56cm角とし、これを一つずつ、又並べてソファ、デイベットなどに使用する。自由に動かすということと、ソファなどに使用する場合の安定性と両者の意味から脚部は13mm鉄筋を使用して丈夫にした。(第4図第5図)これは同型式の4つの部分から成立ち、溶接したもので、量産の場合は非常に単純化される。中央接合部で結びつけられるためにふれは全くない。

この脚の特長を生かして座は上部金物で取附けてある



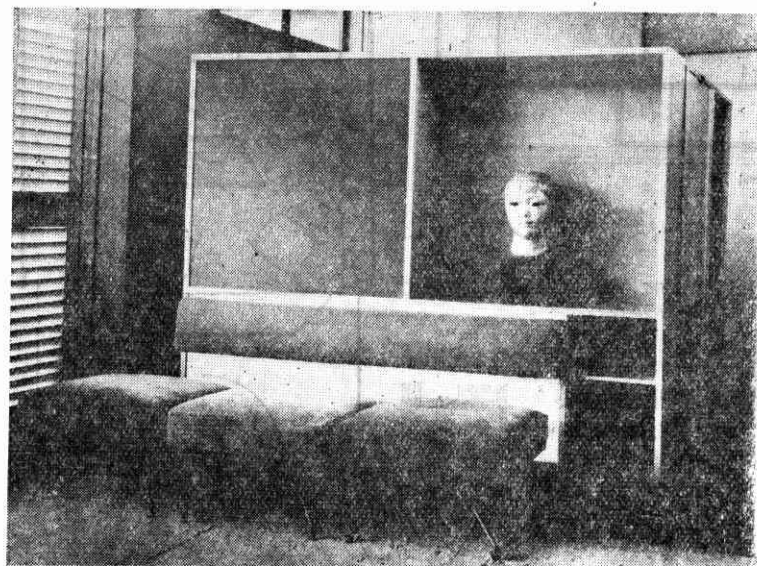
第 5 図

(第4図)ので着脱自在で夏季は座を変え、又イスとテーブルとを上部の取替えだけで変更可能である。この型をアグライスと名附けていろいろと研究しているがコストは従来のイージーチェアの半分以下であり、動かしやすいこと、使い方の変化などで住宅用としては適している。

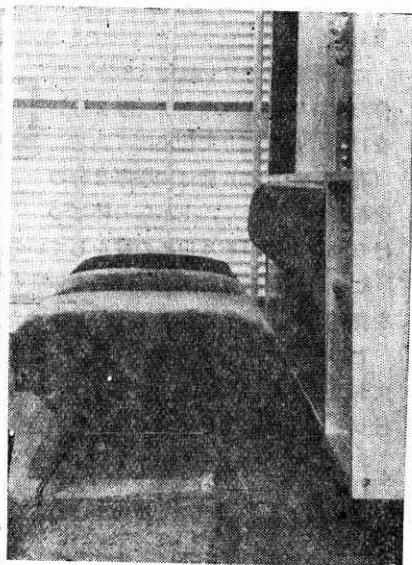
第6、第7図はこれをソファとして使用している例で背後の飾り棚に背だけが取り付けられている。

3. 間仕切りとしての書架

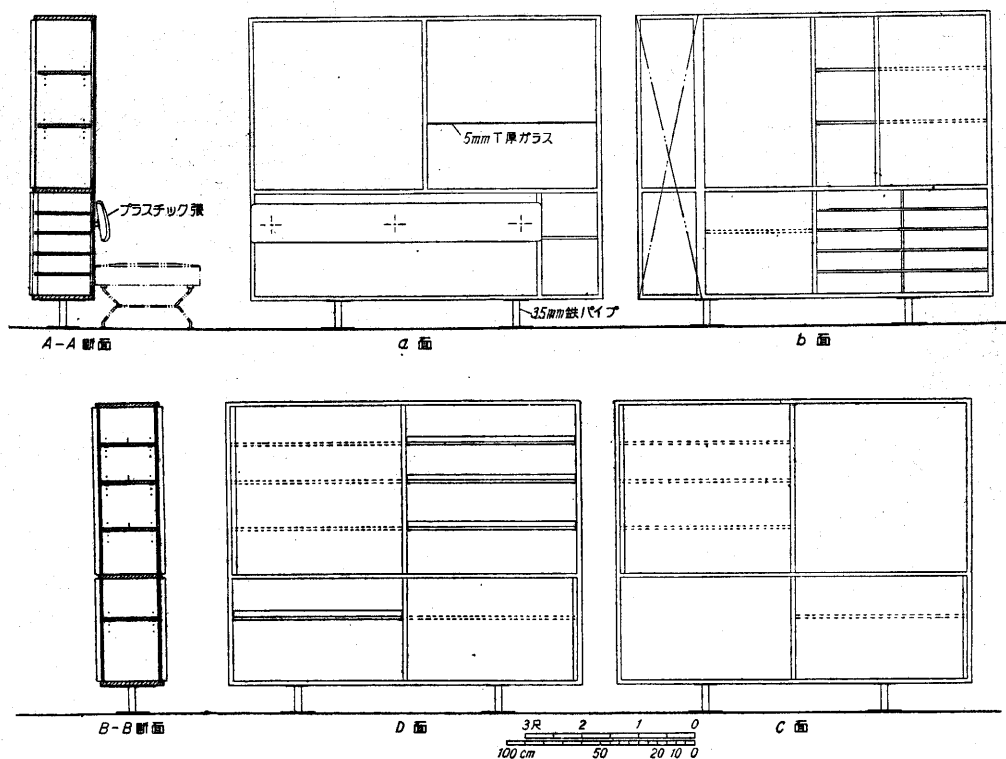
第6、7図の背後に見られる棚は第9図の平面図に見られるようなL型の書棚兼飾り棚であつて同じ大きさの



第 6 図



第 7 図



もの2個がI型に組合されている。これも量産の場合を考えて大きな骨組は全く同一になっている。(第8図)脚部は鉄製である。

このように家具を部屋の中央におくことは書架の使い方を増し、部屋に適当な落着をも与えるとともに部屋の狭さを感じさせない点で有利である。又間仕切りの費用を節約する。

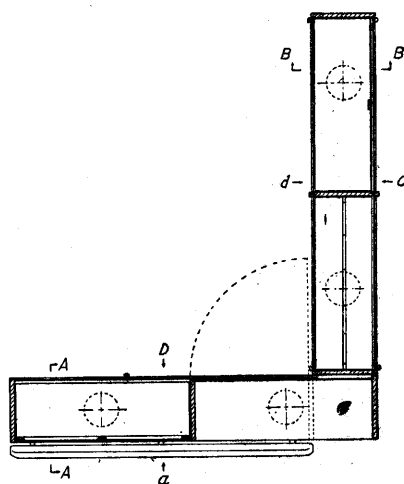
この書棚はラワン板材(8分)で作られ、パネルはベニヤ(厚2分)をはめ、襖紙張りで仕上げてある。(花色、朱、銀)、扉は同様厚2分の合板で枠組はなく、上から一杯につけられた引手がそり止めの役をしている。

この書架は全体に形と板取りの無駄を避けるために、すべての部分に黄金比を採用した。結果は非常に良好であつた。

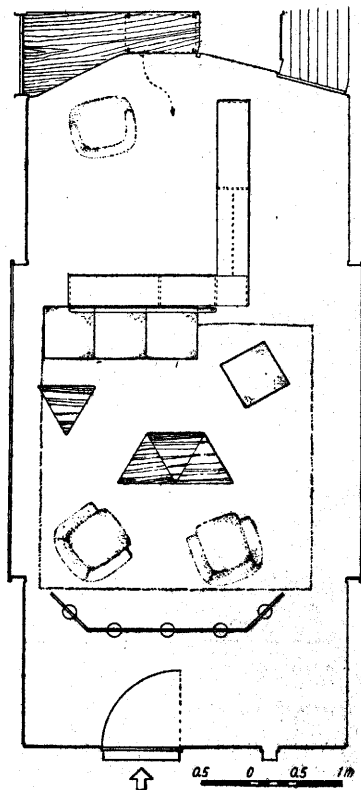
このように棚を部屋の中央におく型式をわれわれは島型、(island)と名付けており、その他の家具、たとえば台所なども部屋の中にこのように配置し、間仕切り費用の節約と掃除の単純化、空間の節約に役立たせている。

4. デスク

第10図は第9図の住宅のデスクであり、古い板をそのまま使ったものである(厚1寸5分)。形が自由に取られている。サイドの書類入れは机とは分けてつくられ、下

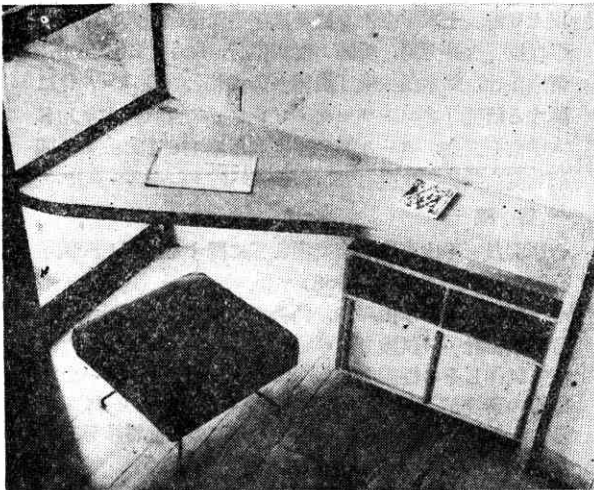


第8図

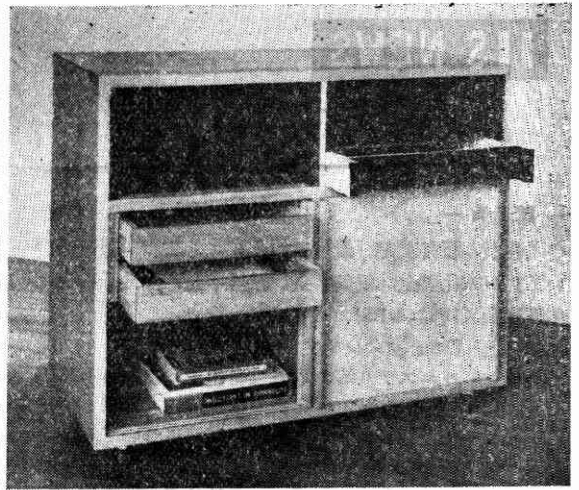


第9図

にゴムの車をつけてあるためにデスク以外の場所で仕事をする時はこのまま簡単に持運びができるために、非



第 10 図



第 11 図

常に便利である(第11図),上部は引出し,下部は戸棚となり,その中にも用紙入れに引出しがつけられている。仕上げは引出し部分がカシュー(ダークグリーン)となっている。

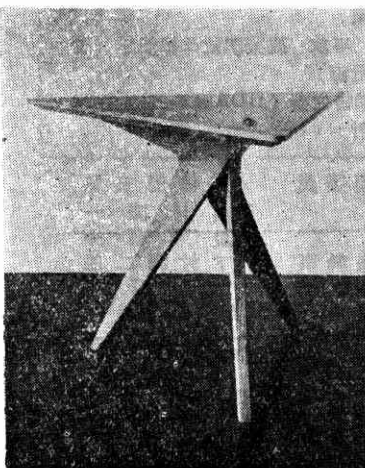
5. ティーテーブル

第12図は正三角形のティーテーブルである。脚も三脚となつているために床が凹凸していても全くがたつかない。正三角形はせまい部屋にも邪魔にならず,又数を組合せれば自由に大きくし,形を変えることができる。第13図は2つの組合せた例であるが6個組合せれば円に近くもなるわけである。大きいティーテーブルは重くなり

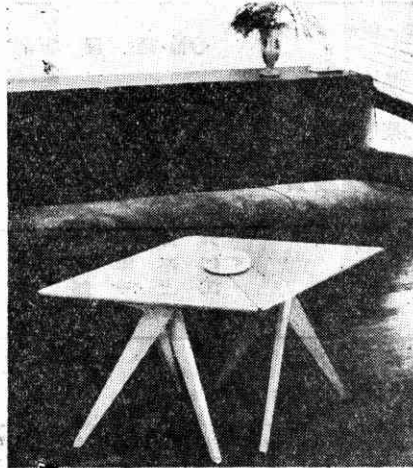
がちで掃除の際や,部屋の片付けに邪魔になる。

6. 壁つきソファア

第13図の背後のソファアは壁に直接おかれたソファアでこの場合に直接壁につけられたのでは背の頭が具合悪く,離れた場合は空間が無駄になる。ここでは背を背脱自在につくり,中を物入れに利用したもので別に新しいものではないか,最近つくつたものをここに紹介する(第14図)。使い方は非常に簡単で坐つたままで自由に操作ができる。背をこの型式でつくり,座を前記のアグライス型式につくことも考えられる。(1953-6.9)



第 12 図



第 13 図



第 14 図